

「高校生未来プロジェクト」、その概要と成果

学びの意味を語り合い、学びの意欲を高める

近年、高校生の学びの意欲が低下していると指摘する教師は多い。ベネッセ教育総合研究所の調査でも、勉強の意味を見いだせず、「勉強しよう」という気持ちが出ない」「どうしてこんなことを勉強しなければならないのかと思う」と答える高校生が、半数以上を占めるなど、高校生の学びの意欲が低くとどまっていることが明らかになっている。また、「将来の進路は大学進学後に考える」という高校生も約5割に達しており、なりた職業を高校時代

学びの意欲を高める 新たなモデルを目指す

ベネッセ教育総合研究所が企画・運営する「高校生未来プロジェクト」は、高校生の社会貢献意識と「学び」をつなぐことで、高校生の学びの意欲を高めようとして始められた。ここでは、2012年のワークショップの概要と成果を振り返る。

ポスト3.11 高校生未来プロジェクト ～「学び」がボクらを、社会を変える～

ワークショップ概要

- 参加者** 全国の高校1～3年生 34人 (男子13人、女子21人)
期間 2012年12月26日(水)～27日(木) 1泊2日
会場 東京大 本郷キャンパス 福武ホール内 福武ラーニングスタジオ (東京都文京区)
募集方法 学年を問わず、日本国内の高校、それに準ずる学校に在籍する生徒を募集。作文課題「あなたはこれからどんなことを、どのように学びたいと思いますか? 将来の社会貢献とつながりや、自分が大切にしている価値観を踏まえて、今の考えを書いてください」(800字程度)の内容により審査。募集期間約1か月で全国から100人を超える応募があった。
参加費 無料 ※宿泊費、開催中の食事代を含む。交通費は一部補助。
企画協力 オックスフォード大教授/元東京大教授 荻谷剛彦先生
運営協力 株式会社もくてぎ代表/ハタモク代表 與良昌浩氏、One&Only 代表/ハタモク副代表 生田早智江氏
主催 ベネッセ教育研究開発センター(現・ベネッセ教育総合研究所)「高校生未来プロジェクト」事務局

ワークショップの大まかな流れ

- 1日目**
- 13:00 ワークショップ開始
 - 13:20 自己紹介、参加理由、期待などを共有
 - 13:35 大切にしている価値観、問題意識を共有
 - 14:00 「高校での勉強」「大学での学問」「社会貢献」「未来・将来の自分」について気になっていることを書き出し、語り合う
 - 15:05 語りたいテーマを選んでディスカッション
 - 16:30 オックスフォード大・荻谷剛彦教授講義「学問と社会のつながり」
 - 18:00 大学生・社会人とのセッション「学問・勉強と今」
 - 20:00 1日目終了/宿舎へ移動
- 2日目**
- 9:30 実現したい社会と、そのための貢献についてディスカッション
 - 10:45 大学の学問と、高校の勉強の意味・価値についてディスカッション
 - 13:00 学びの目的をシートに記入、共有
 - 13:40 半年後の自分への手紙を書く
 - 14:00 ワークショップの感想、気づき、そして「自分にとっての学び」を1人一言ずつ発表
 - 15:00 全プログラム終了



授の企画協力の下、未来PJは企画された。全国から1000人を超える

全国の高校生が 自分、社会、未来を語り合う

「ポスト3・11 高校生未来プロジェクト（以下、未来PJ）」を企画した。

だが、その一方で、東日本大震災以降、高校生の「社会に貢献したい」という思いや、ボランティアに対する関心が高まっていることが調査によって確認された。そうした状況を踏まえて、ベネッセ教育総合研究所は、「高校・大学での『学び』が社会への貢献に役立つことを実感できれば、高校生の学びの意欲は高まるのではないか」という仮説の下、高校生自身が「学び」の意味や社会と「学び」のつながりを全国の高校生活と共に主体的に議論する場として、「ポスト3・11 高校生未来プロジェクト（以下、未来PJ）」を企画した。

実施直後 図1 2日間のワークショップで、大半の参加者が学びへの思いを捉え直した

Q. 2日間のワークショップを通して、何か得られるものはありましたか？



◎どのようなことを得たか、具体的に教えてください

夢・目標・やりたいことの変化・確信/学ぶことの意味・重要性/自己の再認識/知識の浅さ/議論・対話の大切さ/いろいろな意見・価値観をシェアすることの大切さ/新しい友人・仲間 など

Q. 2日間のワークショップを通して、学びに対する思いや、大学で学びたいことに変化はありましたか？



◎どのような変化が具体的に教えてください

学ぶ意味を見いだせた/前向きになった・自分で考えて行動できるようになった/みんなから刺激を受け、中途半端ではいけないと思った/知識がないことは恥ずかしいと思った/常識を突き詰めることが大切だと思った など

実施直後 図2 ワークショップを経て変化した、高校生たちの「学び」への思い

高校での学びに対してポジティブな感情を持てるようになった！

1年生男子 Aさん

学校で教えられることはその大半が実用性に欠けるものであるのかもしれませんが、そうした無意味に思えるものほど、私たちの思考力を高めるのだと、私は思います。

さまざまな分野を学ぶことにより、多面的なものの見方・考え方が養われるのではないのでしょうか。ただ、「多くを学ぶ」ということは、勉強が不足していれば単なる「知識の詰め込み」で終わってしまうということです。そうならないよう、地道に勉強し続けようと思います。

勉強がつまらないのではなく、勉強をつまらないと思っている自分が一番つらい！
「学ぶ」ということは、問題解決に必要な共通認識を得るための「作法」であって、そうした型を身に付けることで学問の道は開かれる。

明日は、今日気付いたことを深め、より自分の心に定着させられるようにしたい。そして、より多くの人と話をし、今回のワークショップを今後に生かしていきたい。

高校での勉強は「さまざまな問題を解決するために必要な抽象的思考を培うための準備」に過ぎない。これまでは高校での学びに対して、全くポジティブな感情を抱いていませんでしたが、今回の2日間のワークショップを通じて、かえってポジティブな感情だけを抱くようになりました。大学で学びたいことに変化はありませんでしたが、学ぶ際には常に問題意識を持つように心掛けたい。

参加前

ワークショップ
1日目



ワークショップ
2日目



「高校の勉強はセンター試験のため」
→「たくさんの可能性を導き出すため」

2年生女子 Bさん

高校で学ぶことのほとんどが将来の生活では直接必要のないことばかり。それでも勉強をする理由はただ1つで「センター試験で必要だから」。しかしそれで終わるのではなく、センター試験は将来につながっていく。結局は将来のために勉強をするのです。将来のためだけではアバウトすぎるので、私はセンター試験で良い点を取ることが今高校で学ぶ意味だと思っています。

こんなにもみんなの価値観が違うなんて思わなかった！ 想像以上にみんなの答えがしっかりしていて驚いた。

ずーっと頭を使っていたので、とても疲れて、頭がいろいろな意味でモヤモヤしています。もっと深くみんなと話したい。みんな初対面で、お互いを尊重しすぎているのではないかと思ったので、もっと意見をぶつけ合っていけたら楽しいはず！

自分の考えばかりを主張するのではなく、人の考え方も耳を傾けて、自分の中でも気付ける・考え直せるようになりました。

みんな真っ直ぐに未来のことを考えている。自分も中途半端ではいけない！

自分の望む夢にもたくさんの方法や道がある。明日からは、もっとたくさんの人と出会って、もっと視野を広げていきたい。たくさんの可能性を導き出していきたい！

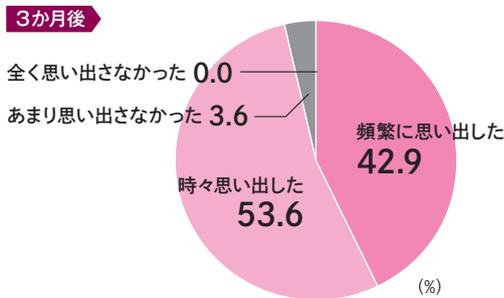
応募があり、厳正な審査の結果、34人（男子13人、女子21人）の生徒の参加が決定した。そして、2012年12月、東京大学本郷キャンパスの福武ラーニングスタジオにて、1泊2日のワークショップが開催された。

ワークショップ1日目は、「高校での勉強」「大学での学問」「社会貢献」「未来・将来の自分」について、グループで語り合い、更に「学問と社会のつながり」をテーマにした荻谷教授による講義、「学問・勉強と今」をテーマにした大学生・社会人とのセッションを経て、学びの価値について考えていった。

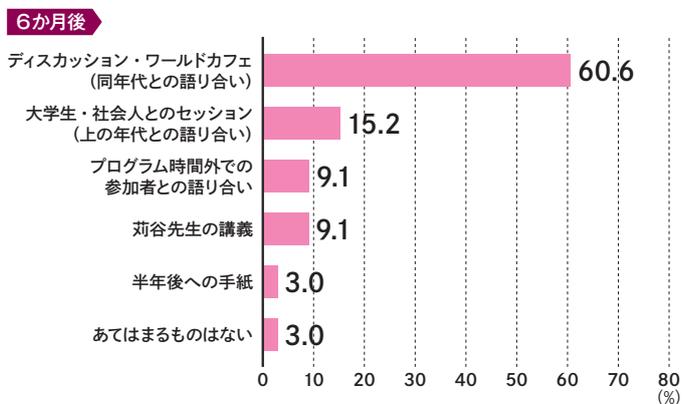
そして2日目は、「どのような社会を実現したいか」「その実現に向けてどのような貢献の仕方が考えられるか」「大学での『学問』、高校での『勉強』の意味・価値」についてグループで議論し、自分にとっての学びの意味を考えていった。最後に、2日間の総まとめとして、「半年後の自分」に向けて手紙を書き（2013年6月に各自の手元に到着）、ワークショップが終了した。

3・6か月後 図3 影響を与えているのは、プログラム内外での「語り合い」

Q. ワークショップが終わってから現在までの間、あなたはワークショップのことを思い出すことがどの程度ありましたか？



Q. 「今の学び」に影響を与えているプログラムは何ですか？



◎どのようなことを思い出したか、具体的に教えてください

- ・3学期が始まってすぐに、友達が「勉強とか学校とかだるいわ。冬休みに戻りたい～」みたいなことを言っていた時、みんなとのディスカッションでの『今』のことは未来に繋がっているからやるんだ」という話が思い浮かんだ。そのおかげで、学年末まで気を引き締め頑張ることが出来た。
- ・まず、ほとんどは参加者のことだった。メールなどをして、その度にその人たちの顔や言われたことを思い出した。あと、勉強が行き詰まった時に、時々荻谷先生のお話を思い出すことなどもあった。他の参加者の目標などを思い浮かべ、自分も頑張るようにした。
- ・大学に進学するかどうか考えた時に、みんなと「学び」について話したことを思い出した。

6か月後 図4 ワークショップで得られたことは、生活、学習、進路に好影響を与え続けている

Q. あなたがワークショップから得たことは、ワークショップ後から現在までのあなたの普段の生活や学習・進路に対してどんな影響を与えたと思いますか。

夢・やりたいこと

- ・やりたいこと、夢を探すようになった。
- ・やりたいことを積極的に探そうという姿勢で生活していたため、やりたいことが増えてより勉強に取り組む意欲が増えました。

勉強・学習に対する考え方

- ・どの分野の知識も決して無駄ではないと改めて実感しています。
- ・受験に必要な教科に対しても、真面目に取り組むようになり、どんなことも、いつか自分のためになると思うようになった。

学校の勉強以外の行動

- ・勉強だけでなく、社会貢献について考え、身近なボランティア活動に取り組むようになった。
- ・短期留学にチャレンジしてみた。

進路意識・将来展望

- ・大学に行くという進路の考え方を与えてくれた。

人との関係

- ・「こんな考え方もあるのか」「これは一理ある」という他人の意見の大切さがとてもよく理解できた。
- ・ディスカッションや普段の会話の中で、相手と自分の関係を意識して話すようになった。

自己意識

- ・今まで、自分が行くことに対していつも「正しいのか」「誰かのためになっているのか」「これでは駄目」と追い込み焦っていましたが、自分の出来ること（自分しか出来ないこと）をすることが社会貢献につながることを理解して、考え方や行動に余裕が生まれ始めました。

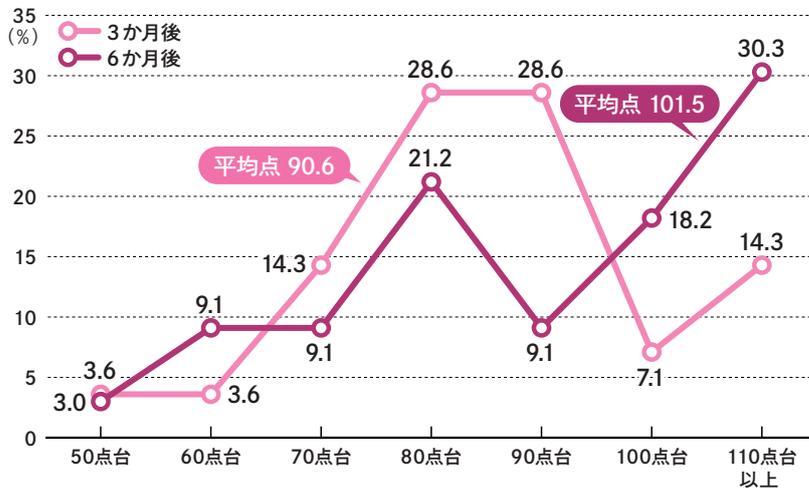
6か月後も学びの意欲は維持・向上した

2日間のワークショップで、ほとんどの参加者が高校での学びに対してポジティブな感情を持つようになった（P.7 図1・2参照）。更に、ワークショップから約3か月後と約6か月後に、生徒の学びの意欲を検証したところ、ワークショップの経験は、普段の生活や学習、進路に対して良い影響を与えていることが分かった（図3・4参照）。そして、学びに対する意欲はワークショップ後も維持・向上しており、特に6か月後は、参加者の半数近くが終了直後よりも意欲が向上していることが明らかになった（図5参照）。

これらのことから、「学ぶ意味」「勉強する目的」をテーマに、高校生同士や高校生と大学生・社会人で語り合い、内省を経て気付きへと至る手法は、学びの意欲の変容に効果を発揮する可能性があるという結論が得られた。

3・6か月後 図5 6か月後、参加者の半数近くの学びへの意欲が終了直後よりも向上

Q. ワークショップ直後のあなたの学びに対する意欲を「100点」とすると、現在のあなたの学びに対する意欲は何点くらいになりますか？ 大体で構いませんので数字でお答えください



	3か月後	6か月後
300点		1
170点	1	
150点	1	2
126点	1	
120点	1	6
110点		1
105点		1
100点	2	5
98点	1	1
95点		2
90点	7	
85点	1	1
83点	1	
80点	6	6
75点	1	2
70点	3	1
67点		1
60点	1	2
55点		1
50点	1	

3・6か月後 図6 参加者の約67%が6か月後もワークショップのことを友達や同級生に話した

Q. ワークショップから3か月後までの期間で/3か月後から6か月後までの期間で、あなたは次のようなことをしましたか（複数回答）

